

北の丸公園の利用の在り方に関する検討会（第1回） 議事要旨

1. 日時：令和5年3月23日（木）10:00～12:00

2. 場所：日比谷国際ビルコンファレンススクエア

3. 出席者：

（検討会委員 ※50音順・敬称略）

岸井 隆幸（一般財団法人計量計画研究所 代表理事）

鈴木 誠（東京農業大学名誉教授）

鳥居 敏男（一般財団法人自然公園財団 専務理事）

西村 幸夫（國學院大學観光まちづくり学部 学部長）座長

林 良博（独立行政法人国立科学博物館 顧問）

矢ヶ崎 紀子（東京女子大学 副学長、現代教養学部国際社会学科 教授）

（環境省）

奥田直久自然環境局長、松本啓朗大臣官房審議官、細川真宏総務課長、曾宮和夫国民公園室長、中村邦彦皇居外苑管理事務所長、他

（オブザーバー）

内閣府、宮内庁、警察庁、財務省、文化庁、国土交通省、観光庁、東京都、千代田区

4. 議事概要

（1）開会・あいさつ

○開会あいさつ（奥田自然環境局長）

○座長あいさつ（西村座長）

（2）検討の背景・趣旨

○事務局から資料3、資料4に基づき、説明

【鈴木委員】

- ・ 「皇居外苑の利用の在り方に関する懇談会報告書」で、「文化施設と自然の融合する活動などについても、今後検討していくことが期待される」とあるが、現在、自然観察など北の丸公園で行われている利用や活動に対する支援について、現状を把握しておいた

方が良い。

【岸井委員】

- ・ 首都高を計画決定する際に、様々な議論があったと思うが、首都高で北の丸公園を分断することに対して、当時どのような議論があったのかを整理しておいた方が良い。

【西村座長】

- ・ 昭和41年の閣議了解では、その他の建物は「一切認めない」となっている。これは厳しい閣議了解だと思うが、ここまで書かれた具体的な背景があれば、整理しておいた方が良い。
- ・ 北の丸公園平面図のピンクの部分が北の丸公園の部分だが、議論するに当たっては、千鳥ヶ淵や向こう側の景観も配慮しながら議論していくのが良い。
- ・ 東京国立近代美術館、国立公文書館の利用者数も、整理しておいた方が良い。

【鳥居委員】

- ・ 資料4の10ページ目以降に「水質」、「生物の生息・生育環境の確保」、「景観」、「利用」などの理想の姿が描かれているが、これを実現するために何か具体的な行動を起こしたことがあるのであれば、整理しておいた方が良い。

【林委員】

- ・ 森林公園としての北の丸公園は、博物館の展示と同じように生きた展示でもあり、その利用がもっとあっても良かったと思う。
- ・ 科学技術館が大がかりな改築を考えていて、今後変わることができる。科学技術館や東京国立近代美術館などと連携しながら、北の丸公園を活性化していくことを今一番に考えるべきであり、連携の強化が非常に重要。

(3) 今後の利用の在り方

○事務局から資料5、参考資料に基づき、説明

【林委員】

- ・ 北の丸公園にふさわしいあるべき姿が一番大切だが、これは歴史を踏まえることと、文化的なことに配慮すること、だと思う。
- ・ 東大の副学長で施設担当をしていた際に、大学の構内を開放する観点から整備を行った。北大のキャンパスでも、観光客を受入れるために、利用者目線で色々なサインや掲示板などを整備しており、素晴らしいと思う。
- ・ 今後、北の丸公園の施設整備を進める際には、色の使い方の検証や、スマホを活用した

多言語での案内、大人用と子供用の樹木解説など、技術的にはいくらでも考えられる。東大や北大、他の公園、国立科学博物館などの先進事例を踏まえて、できるだけ良いもので、経費をかけなくてもできるものを、利用者目線で整備していただきたい。

【鈴木委員】

- ・ 「公園の内外との連携が不足している」とあるが、公園や園地の計画をする際には、アクセス・入口をどこにするかは、最初に考えること。水面からのアプローチもあるかもしれないし、海外では、崖の上にあるお城にアプローチ階段を付けて、垂直移動する事例もある。新しいアクセスを導く場合や、文化財、史跡としてお濠や城郭を構成する土塁に手を加える場合の手続きについて、整理しておいた方がよい。
- ・ 日本が誇るナショナルガーデンは、京都御苑と新宿御苑と皇居外苑。このナショナルガーデンとして、皇居外苑一帯のイメージを確立していくべき。それには、北の丸公園だけを考えるのではなく、東御苑、皇居外苑、日比谷公園まで含めた範囲全体を考えなければいけない。また、新宿御苑、京都御苑と同等にイメージされるような、清楚で品位ある姿を実現するためのハードとソフトを、考える姿勢が大事。
- ・ 清楚で品位あるものというのは何かということをもう一度考えていくことと、北の丸公園、東御苑、皇居外苑一体となったナショナルガーデンとしての情報を発信していくことが、両輪。国民が納得してくれるような、外国人にも魅力を感じてもらうような情報発信と同時に、中身をしっかりとしていくという、両輪を確実にこなしていくことが現実的であり、そのような検討を進めていくのが良い。
- ・ 都心部で再開発ビルができる際には、駐車場は地下に入れている。一方、北の丸公園を平面的に見ると、第1・第2・第3駐車場がすごく面積を取っている。これについて、何かやれる方法があるのかについても、検討した方がよい。
- ・ 両国国技館は、雨水を全部、地下に貯蔵・処理して、いざというときに使えるようにしている。科学技術館についても、自然と共生するような科学技術という知恵を活かすことも重要である。

【岸井委員】

- ・ 駐車場ごとに1年間の日変動が分かるデータ、一番多い日から並べ替えたデータがあると良い。イベントがある日はすごく混んでいるが、かなり空いている日もあると思う。どれぐらいの駐車場が必要なのかというサービスも、考えなければならない。
- ・ 北の丸公園の外側も含めて、大型車の観光バスの駐車場がどれぐらい点在しているのかを確認してほしい。第3駐車場をどのように使うのかを検討する際に、そのようなデー

タがあると良い。

- ・ 東御苑、皇居外苑や日比谷公園を一体のものとして、東京の真ん中に緑があるということについて、しっかりとPRをすべき。日本庭園を見に東御苑に多くの外国人が来るので、少し足を延ばしたときに、どのようなものがあるのかというのは、しっかりと情報提供できるようにしておきたい。
- ・ 北の丸公園の中には、既に科学技術館や東京国立近代美術館、国立公文書館、日本武道館もあるが、このような施設は、それぞれの脈絡の中で、どのように位置づけられているのか、ということを理解しておいた方が良い。例えば科学技術館については、上野にも国立科学博物館があり、渋谷にも新しい情報発信拠点を作ろうとしている。有名企業が集まっている品川でも、日本の技術を発信できる場や仕組みが作れないか、議論している。その中で、それぞれの場所がどのような役割分担をしていくのか、見に来る方が理解できるように情報発信しているのか、というのは大変大きな問題。日本の科学技術というときに、どこに行けば何が一番適切に目に入るのかということを含めた、それぞれの発信と質が合っている必要がある。北の丸公園の中の話と、北の丸公園の一つ外側の皇居周辺の話と、東京全体をにらんで発信すべき話と、それぞれのフェーズがあると思われるので、アイデアを出せる材料を整理しておいた方が良い。
- ・ 北の丸公園のデザインをどうするかということを考えるときに、どこからどのように見えるかが大事。九段坂のテラスなど、千鳥ヶ淵を越えて見ているような外からの視点場はどこなのか、というのを整理した方が良い。一方で、北の丸公園から千鳥ヶ淵などの外側を感じることができる場所はどこなのか、うまく見られそうな場所はどこなのかについても、探してみる価値がある。
- ・ 日本武道館でのイベントの最中に地震が起きたときなど、千代田区や東京都が立てている防災計画の中で、北の丸公園の位置づけはどのようになっているのか、ということも理解する必要がある。外国人が多く来ている中で、安全性に対する理解を深めてもらうためにも、北の丸公園で用意するものについても整理しておくが良い。

【鳥居委員】

- ・ 改修が間もなく完成する三の丸の尚蔵館や、今後整備が始まる日比谷公園が、どのように変わって、どのような情報を発信していくのかを踏まえた上で、北の丸公園におけるハード、ソフトでの情報発信について検討した方が良い。
- ・ 北の丸公園のアクセスについて、徒歩、地下鉄、タクシー以外にも、周辺で千代田区がバスを運行している。そうしたバス停がどこにあって、利用者がどのくらいいるのかが

分かると、今後の利用の検討の参考になると思う。

【矢ヶ崎委員】

- ・ 北の丸公園にあるそれぞれの設備、施設がどのような機能を果たし、どのような機能を実現していきたいと考えているのかを整理した上で、広域的な視点を持ちながら検討していく必要がある。
- ・ 論点にある「多くの来訪者に対して更なる魅力向上と活用を図る」という点について、森林公園として培ってきた価値そのものを上げていくということは、非常に大事なことだと思う。また、その魅力を伝えていくことや、利用者がその魅力を良く理解してもらえる環境を作っていくということも大事。これには、単なる情報発信とは違う仕掛けが必要。
- ・ 滞在時間を延ばしてもらうためには、一か所にゆったりといること、回遊してもらうこと、という二種類があり、それぞれどのようにしていくのかを考えるべき。また、この二つの動きを加速するのは、案内表示だけでなく、質の良い飲食。森林公園の価値を損ねないように、かつ、日本全国でオーバーツーリズムの一つとして言われている食べ歩きのようなことが起こらないように、適切な休憩施設、カフェといった機能を持ったものを配置していく必要がある。その点で、北の丸にある施設が果たしている機能も確認しておく必要がある。
- ・ 日本の顔たるところなので、品の良い形、上質な形で、人がある程度の時間を過ごすことができる機能を備えていく必要がある。回遊の促進については、科学技術館、国立近代美術館、国立公文書館と連携をして、人を呼んでいくということも今後あると楽しいと思う。
- ・ 論点にある「国民に受け入れられる北の丸公園にふさわしいあるべき姿」について、この国民のところに、訪日外国人旅行者も入れてほしい。近々閣議決定する観光立国推進基本計画でも、持続可能な国であるということ、日本を理解しリスペクトしてくれる旅行者を大事にしていくこと、という方向がにじみ出ており、北の丸公園も非常に貢献できると思う。顔として品のある、使い方のルールも定まった場所になっていくと、訪日外国人旅行者に対しても良い魅力の訴求点になる。

【西村座長】

- ・ 北の丸公園にある施設は、今後いろいろな変化がある。科学技術館の耐震化や、工芸館の金沢への移転、国立公文書館の移転など、いろいろな状況が建物側にもあるので、それぞれ今後どのように考えたら良いか、それぞれに話を聞く場面も用意してほしい。そ

の中で、全体の方向性を調整していくことが必要だと思う。

(4) 今後のスケジュール

○事務局から資料6に基づき、説明

(5) その他

○閉会あいさつ（松本大臣官房審議官）